

観光社会資本の事例

テーマ	百万人が訪れる海水浴場須磨海岸
【施設の状況写真】	
	
<p>源平合戦の古戦場に近く古くから景勝の地である須磨海岸</p>	<p>砂浜が浸食されないよう離岸堤を整備し、いつでも散策が可能な遊歩道を整備しています</p>
<p>須磨海浜公園内にある旧和田岬灯台(赤灯台)</p>	
【施設の利用写真】	
	
<p>鉄道・道路の利便性の良さから1シーズンに百万人台もの海水浴客が訪れます</p>	<p>浜辺でのレクリエーションの活動も盛んに行われています。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>須磨海水浴場は阪神間有数の海水浴場で、JR 須磨駅の南側が海水浴場という交通の便の良さから、神戸及び大阪方面からも海水浴客が訪れており、海水浴シーズンには毎年100万人もの人でにぎわいます。</p>	
<p>またビーチバレーボール大会などの各種イベントも盛んに行われています。さらには海岸北側には須磨海浜公園が隣接しています。公園内は青松の林があり、散策も楽しむことができます。また須磨海浜水族園や球技場及びヨットハーバー、さらに現存する日本最古の鉄骨製の旧和田岬灯台が移築されており、子供から大人までが楽しめる施設が揃っています。</p>	

テーマ	百万人が訪れる海水浴場須磨海岸
【社会資本の基礎データ】	
名称	須磨海岸
所在地	神戸市須磨区若宮町～須磨浦通
事業名	神戸港 須磨海岸環境整備事業
事業主体	神戸市
事業期間	昭和48年～平成10年
【社会資本の役割・効果】	
<p>須磨海岸周辺は、山が海に迫る源平合戦の一ノ谷の戦いの地としてよく知られています。また海と青松白砂の海岸と山の緑がつくる風光明媚な場所であることから、昔から海水浴場として人々に利用され親しまれてきました。しかし、周辺の海浜の浸食がすすみ海水浴場として使いづらくなったことから、1973年(昭和48)～1998年(平成10年)にかけて須磨海岸環境整備事業(砂が波に獲られなくする離岸堤・突堤の建設、レクリエーションなど人々が楽しめる場となる砂浜を大きくする養浜工事、海岸を散策しやすくする遊歩道工事)を行っています。その結果、年間百万人が訪れる阪神間有数の海水浴場としてにぎわっています。</p>	
【位置図】	
【関連ホームページ】	
神戸市みなと総局HP	http://www.city.kobe.jp/cityoffice/39/port/
(財)神戸市公園緑化協会	http://www.kobe-park.or.jp/kyoukai/
シーパル須磨(神戸市立国民宿舎須磨荘)	http://www.kcva.or.jp/seapal/